

經濟論叢

第118卷 第5・6号

社会福祉法人会計の問題点……………	野村秀和	1
非鉄金属鉱業の資本蓄積と公害……………	吉田文和	25
第1次大戦後日本の鉄鋼流通機構……………	長島修	55
産業別組合と職場世話役運動……………	仁井榮良憲	79
三環節論の再検討……………	杉野幹夫	98
研究ノート		
A・ロンカリアのヴィトゲンシュタインとスラッファ の関係に関する所説についての一試論……………	菱山泉	115

經濟論叢 第117卷・第118卷 総目録

昭和51年11・12月

京都大學經濟學會

記 事

経 済 学 会

京都大学経済学会と同志社大学経済学会の共催による公開セミナーが、11月2日(火)午後3時より5時まで法経北館会議室でおこなわれた。

リカードと経済政策論

カナダ・トロント大学 Prof. Samuel Hollander
(通訳 京都大学助教授 瀬地山 敏)

(報告要旨)

ホランダー教授の報告のねらいは、(1) 経済活動の目的 (2) 資本蓄積と分配とくに労働者の生活水準との関連 (3) 政策目標の評価規準をめぐるリカードの推論をよりの確に構成することによって、リカードはもっぱら産出量を極大化する問題にかかわり、経済政策の目標もその観点からのみ考察していた、とするスティグラー、ハチソン教授や1820年代のリカード派社会主義者の誤まった解釈を正すことにあった。以下は、その論旨の要約である。

(1) スミス、リカードの古典学派においては、生産が無限定に強調されたのではなく、経済活動の目的として消費を重要とみる視座が基本的であった。リカードが穀物取引の自由化を主唱するのは、それが生活必需品(消費)の増加という利益をもたらすと考えたからである。技術進歩と自由貿易による1人あたり産出量(生産性)の上昇は、より高い蓄積率をもたらすが、この蓄積過程は分配の変化をとめない、より高い賃金(したがって消費)、より高い利潤を生みだしてふたたび生産・消費の拡大に有利な条件をつくりだす。リカード体系における生産の強調はそれが活動の目的である消費の増加に寄与するからである。

(2) リカードは労働者の生活水準の上昇を経験的に可能であるとみていた。いくつかの根拠から、当時の生活水準は生存水準以上である、と彼はみている。また、賃金の生存賃金への低下はマルサス法則を介した自然法則であり、彼は人口法則にもとづき救貧法の廃棄を主張したとするのが通説であるが、彼の体系では人口法則、生存賃金は重要ではなく、救貧法廃棄の主張も、適切な措置のもとで廃棄が蓄積・分配の関係をとおして賃金の上昇につながると考えられたからである。生活水準に対する機械導入の影響は大きい。彼はこの問題を主として、一定の資本ストックが技術進歩に適応するというきびしい仮定のもとで論じているが、革新は資本ストックの増分(資本蓄積)に体现され、また前者は後者に対し促進的であるという認識を考慮にいと、彼はのちのエコノミストにくらべ、機械の導入に楽観的展望をもっていったといえる。

(3) 彼の功利主義に対する批判(ジェイムズ・ミルへの書簡)、平等・公正を犠牲にする国債による成長政策への反対、英植民地政策はより高い産出をもたらずが公正ではないとする視点などは彼の政策評価規準が産出量に一元化したものでないことを示している。

報告後、末永隆甫氏(神商大)、斎藤蓮造氏(阪大)より、とくに(2)に関連する討論がおこなわれた。

(瀬地山 敏)